

中高生フォトグラファー応援マガジン

boys & girls photo magazine

No.325

TopEye

2025年度第2回TopEyeフォトコンテスト結果発表!

2025年度第3回TopEyeフォトコンテスト

募集締切

11/10月

当日必着有効

詳細はコチラ



「ほくちん」中畑心
和歌山県立神島高等学校3年



「ストーカー」榎本航大
神戸国際大学附属高等学校2年(兵庫県)



TopEye フォトコンテスト

色彩豊かな作品やグッと被写体に接近した作品が例年以上に目立った今回。「これが1年生!」と驚きの声がかかるほど1年生勢の躍進も目覚ましく、新しい風を感じさせる結果に!

組写真部門

発想の豊かさがありありと伝わってきた組写真部門。写真のセレクトや並び順などにもこだわった、組写真だからこそできる表現方法が素晴らしかったです!



受賞のコトバ

この写真は私の家族が営んでいる理髪店で撮った写真です。この男の子は、この写真以外にも、何回も撮影に協力してくれました。人見知りせず、すぐくおもしろい子で撮影するのがとても楽しく思えました。顧問の先生から「何回もここで写真を撮ったらいいよ」とアドバイスをいただき頑張ってきました。それがTopEye賞という結果につながり嬉しいです。指導いただいた恵納先生、撮影に協力してくれた家族、男の子に感謝です。ありがとうございました。



「ぼくちん」中畑 心

和歌山県立神島高等学校3年

「とにかく素晴らしい被写体を見つけましたね。おそらく短い時間の中で驚くほど多彩な表情を引き出し、その瞬間を逃さず捉えたセンスが見事です。至近距離での撮影も効果的で、「どうしたらいいの!?'という少年の戸惑いすら伝わってきます。見ているこちらにも笑ってしまうような、被写体の魅力と空気感を余すことなく切り取った楽しい作品です」(熊切)
「引きの構図を上手く使い、少年の楽しげな様子が生き生きと伝わる作品です。少年の笑顔だけに注目せず、周囲の大人の冷静な表情や仕草も組み込むことで、少年のひょうきんさがより際立っています。背景にまで丁寧に目を向けた構成によって、単なるスナップではなく、場の空気感や物語性がしっかり伝わってくる点が印象的でした」(秋山)



- 賞状 CREATORSグッズ3点
- +FLTトートバッグ
- +本革スリムストラップ

金賞

2025
第2回

賞状

CREATORSイーザーラッパー

Moleskine Nikon F3デザイン
オリジナルノートブック



「ひとりじゃない」 濱本 海里

和歌山県立神島高等学校2年

「日常的なワンシーンですが、窓からの光を巧みに取り入れることで、その日常がキラキラした特別なものであると感じられる作品。人物は1人でも、エプロンや室内の小物から家族や暮らしの気配が感じられ、穏やかで温かい空気感を引き出しています。見ている側も自然とほっこりした気持ちになりました」(秋山)

「何気ない日常の中にある、静かな幸せが丁寧に切り取られた作品です。狭い空間ながらも、被写体である男性の居心地の良さや穏やかな時間の流れがしっかり伝わってきます。たった4枚の組写真ですが、視点やレンズの使い方に変化があり、限られた場所でもバリエーションのある表現ができていて、そこにテクニックを感じました」(熊切)

受賞のコトバ

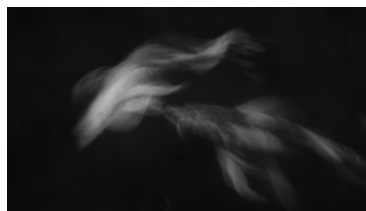
金賞に選んでいただきありがとうございます。この写真は亡くなった祖母と暮らした自宅で過ごす祖父の姿を撮影したものです。一緒に囲んでいた食卓やテレビを見ていたリビング。今にも祖母の笑い声が聞こえてくるような気がします。金賞を受賞できたことを励みに、これからもたくさん写真を撮って、より自分らしい写真を撮れるように頑張ります。この写真が撮影できたのは、日頃撮影に協力して下さる地域の方、家族、顧問の恵納先生や、一緒に部活に取り組む部員のおかげです。今の環境に心から感謝します。



「ゆらめく」 渡邊 昴

錦城高等学校1年(東京都)

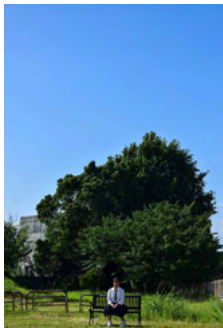
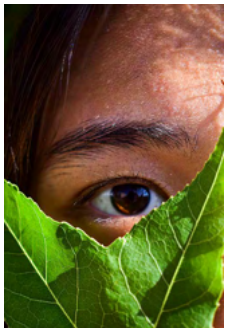
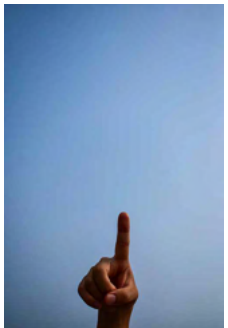
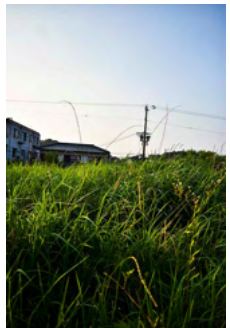
「魚と模様のギリギリを攻めた表現が秀逸で、スローシャッターとモノクロ仕上げによってかろうじて魚の形としたバランス感覚が光っています。構成については2枚で対比を見せる意図も考えられますが、動きや流れをより深く表現したい場合は、3〜4枚に増やしてもいいでしょう」(熊切)



新人賞

2025
第2回

賞状 Nikonオリジナル
キルティングポーチ



「アイオブブルー」 國本 晴

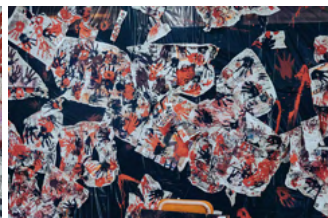
和歌山県立神島高等学校1年

「青をテーマカラーとして取り入れ、さわやかさや生命力を感じさせる構成が魅力的です。寄り引きのある構図が視覚的なリズムと奥行きを生んでいますし、色数を絞って青を引きだてる工夫も見事。もう少し太陽の位置を意識すると、空の濃淡をよりうまくコントロールできると思います」(秋山)

「絶賛、恐怖製造中」 上東 実久乃

北海道北広島高等学校1年

「習字の真面目さと暴走するような世界観のギャップがおもしろい作品でした。若い感性のカオスなエネルギーがよく表現できていて、色彩やデザイン性に強いインパクトがあります。このデザイン性をより活かすなら、3枚すべてを徹底して平面で捉えた構図でもよかったかもしれません」(熊切)



銀賞

2025
第2回

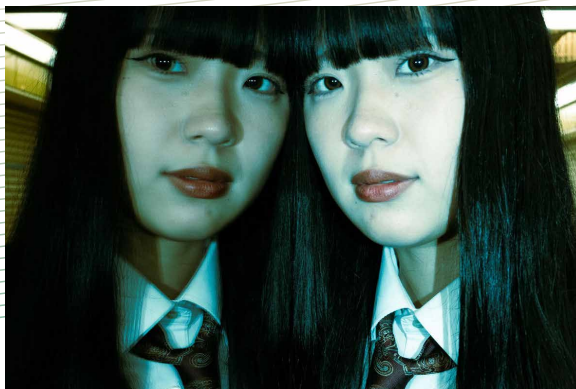
賞状 Moleskine Nikon F3デザイン
オリジナルノートブック

「〈私の友達〉は、マネキンを使った演出がユニーク。見せ方のバリエーションも豊富で、左右どちらから見ることによってストーリーが変化するのが斬新です。組写真のストーリー性がしっかりと活かされた作品だと思いました」(熊切)
「〈Luminance〉は、80年代風のメイクやスタイリングがとてもかわいらしく、世界観がしっかりと作られた作品です。4枚の写真すべてがシンメトリーに構成されていて、まるで現実と非現実の狭間にいるような、不思議な感覚に引き込まれます。色調やトーンに統一感があり、フィルムライクな質感も被写体の雰囲気にぴったりです」(秋山)

和歌山県立神島高等学校3年
「私の友達」 那須美優



大阪府立工芸高等学校3年
「Luminance」 簀下煌太





全国高校生写真サミットへの道!

開催決定

2026年1月30日～2月1日にニコン本社にて、全国高校生写真サミットの開催が決定しました。
 第1回～3回までのTopEyeフォトコンテストでの単・組合計の入賞ポイントの獲得が高い上位10校が参加対象となります。
 TopEyeフォトコンテストにたくさんチャレンジして、全国高校生写真サミットのキップを手に入れよう!
 ※4月にご案内しておりますが、全国高校生写真サミットにご参加いただく際は交通費・宿泊費は一部ご負担いただきます。

2025年度 成績中間発表vol.2

組写真^{部門}

単写真^{部門}

合算

- 1位 和歌山県立神島高等学校 490pt
- 2位 八代白百合学園高等学校 210pt
- 3位 帝塚山学院中学校高等学校 90pt
- 4位 中越高等学校
大阪府立工芸高等学校 40pt
沖縄県立浦添工業高等学校
- 7位 福井県立丹生高等学校 30pt
- 8位 群馬県立富岡実業高等学校 20pt
北海道北広島高等学校
- 10位 宮城県白石工業高等学校 10pt
日本大学第三中学校・高等部
山陽学園中等部・高等部
熊本県立熊本西高等学校
錦城高等学校

- 1位 神戸国際大学附属高等学校 250pt
- 2位 和歌山県立神島高等学校 200pt
- 3位 大阪府立生野高等学校 110pt
- 4位 八代白百合学園高等学校 70pt
- 5位 沖縄県立浦添工業高等学校 60pt
福井県立丹生高等学校
- 7位 広島県立庄原格致高等学校 40pt
大阪府立工芸高等学校
錦城高等学校
- 9位 神奈川県立横浜瀬谷高等学校 30pt
出雲北陵高等学校

- 1位 和歌山県立神島高等学校 690pt
- 2位 八代白百合学園高等学校 280pt
- 3位 神戸国際大学附属高等学校 250pt
- 4位 帝塚山学院中学校高等学校 110pt
大阪府立生野高等学校
- 6位 沖縄県立浦添工業高等学校 100pt
- 7位 福井県立丹生高等学校 90pt
- 8位 大阪府立工芸高等学校 80pt
広島県立庄原格致高等学校
- 9位 錦城高等学校 40pt
- 12位 神奈川県立横浜瀬谷高等学校 30pt
出雲北陵高等学校
- 14位 トキワ松学園中学校・高等学校 20pt
群馬県立富岡実業高等学校
千葉県立四街道高等学校
北海道北広島高等学校
東京都立武蔵村山高等学校



次回締切 11/10^月 当日必着

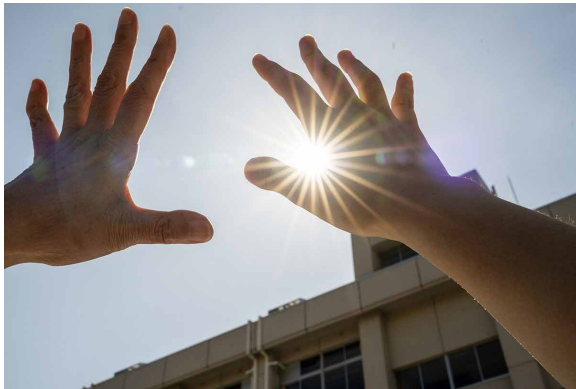
銅賞

2025
第2回

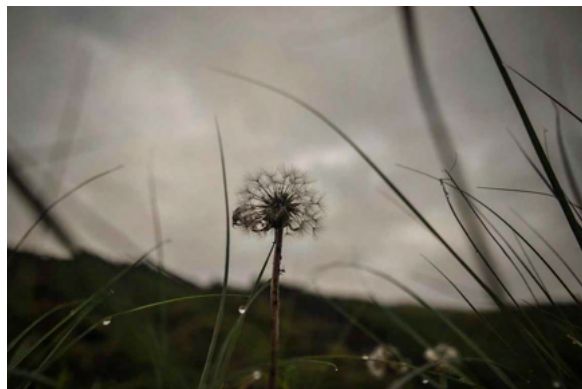
賞状 CREATORズレンズケース

「静寂な物語」は、誰もいない家の中に、家事をする1人の人物だけがそっと存在しています。周囲の生活感のある要素に見えない家族の気配が宿っており、彼女の日常を想像したくなるような作品です。モノクロにすることで見る側が自然と物語を補完したくなるという「見せすぎない”演出が非常に効果的です」(秋山)
 「一触即発『生きるとは』」は、シンプルな構成ながら非常に物語性があります。空と地上、それぞれの場所で動物たちが絶妙な均衡を保って生きていることがストリートに伝わってきますね。構図にも工夫があり、上下の視点を使い分けることで両者の関係性や生きる環境の違いが際立っています。1枚ずつでも力がありますが、3枚並ぶことでより深い意味が立ち上がる良作です」(熊切)

中越高等学校3年(新潟県)
「わたし、18歳」
 荒井七美



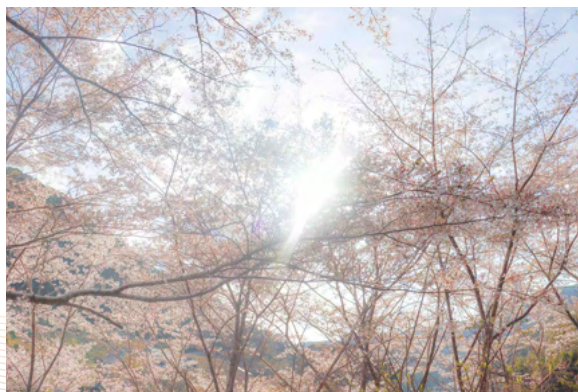
和歌山県立神島高等学校2年
「生きるとは」
 岡崎明日香



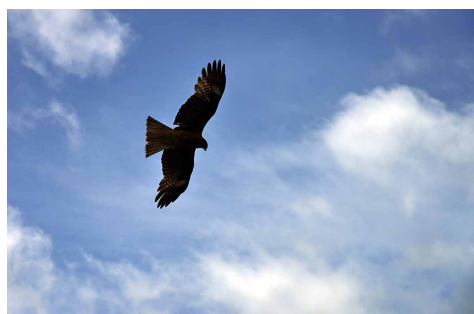
「静寂な物語」 清水 麻衣 福井県立丹生高等学校3年



「新一年生」 田組 夏凪
和歌山県立神島高等学校3年



「一触即発『生きるとは』」 荒坂 真妃 八代百合学園高等学校1年(熊本県)



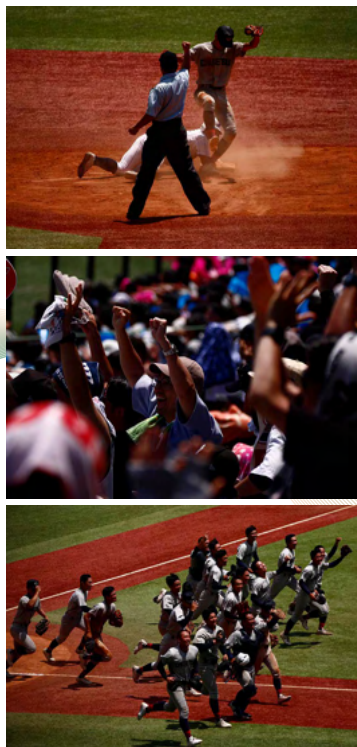
「お祭りの屋」 山中 すみれ 和歌山県立神島高等学校3年



賞状 CREATORSステッカー

「〈お祭りの屋〉は、祭りの熱気を間近で捉えた、迫力あるワイドレンズの使い方が印象的です。荒々しさのある大人たちとよくここまで距離を詰めましたね。そのおかげで迫力と見応えのある構図になっています。プロでもここまで踏み込むのは大変です」（熊切）
 「〈Girl〉は、パーツを組み合わせるに人に見立てる発想のおもしろさに驚かされました。明るく柔らかなモノクロにすることで、実際には目元の一部しか見えていないのに、その人物像を想像させる絵作りになっています。さらにカラーでは出せない一体感も生まれています。こだわって試行錯誤したことが伝わる完成度の高い作品です」（秋山）

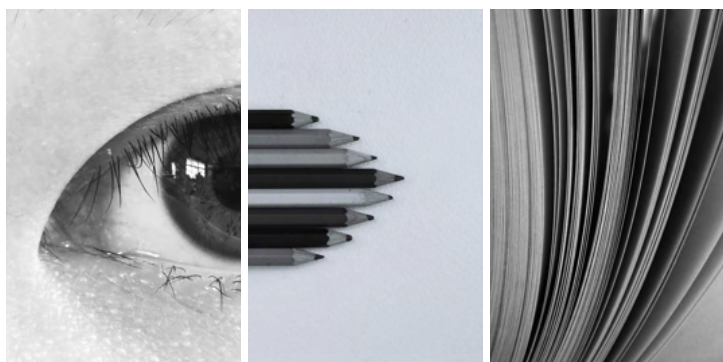
「歓喜」 小林 吾郎
中越高等学校2年（新潟県）



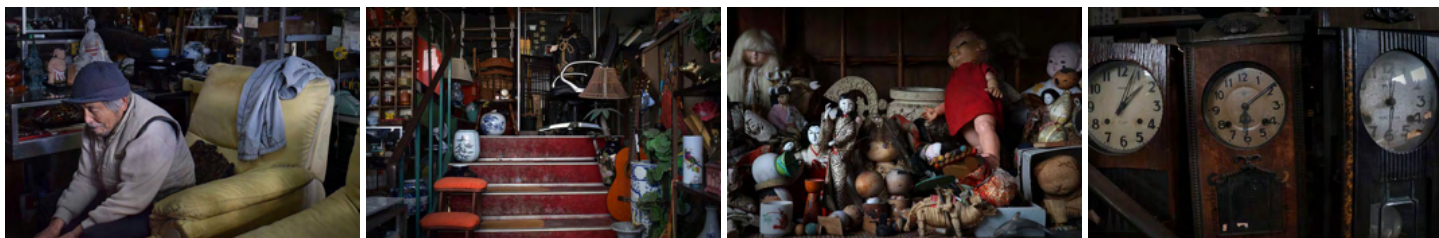
「鉄路の詩」 相馬 虹花
北海道北広島高等学校1年



「Girl」 西本 乃暖
熊本県立熊本西高等学校3年



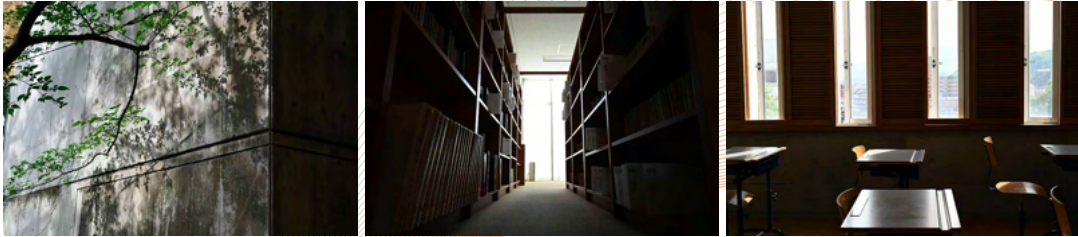
「記憶の住処」 谷坂 陽菜 八代百百合学園高等学校3年（熊本県）



「匿名」 横尾 凜 和歌山県立神島高等学校3年



「明暗の校舎」 藤濱 千真 山陽女学園中等部・高等部 高校3年(広島県)



「真夏の懐かしさ」 山本 奈央 和歌山県立神島高等学校1年



「AM6:00」 岡田 莉瑠 八代白百合学園高等学校3年(熊本県)



「かえりみち」 森本 一栞 和歌山県立神島高等学校1年



単写真部門

1枚で表現するおもしろさを改めて実感できるような意欲作ぞろいとなり、審査がかなり難航した単写真部門。力強いストーリー性や斬新な切り口が先生方を唸らせました。



賞状 CREATORSグッズ3点
+FLTトートバッグ
+本革スリムストラップ

「ストーカー」榎本 航大

神戸国際大学附属高等学校2年(兵庫県)

「インパクトの強さが抜きんでいました。目という強い主張のある被写体に対して、それに負けない存在感を放つジッパーの曲線の捉え方が見事です。前景と後景をうまく組み合わせて、一体感のある画面構成を作り出すことができています。メリハリのある光の使い方によって見応えのある仕上がりになっている点にも惹かれました」(秋山)

「コラージュにもリアルにも見えるような、謎めいた作品ですね。服のディテールと目をあえて一体化させた点が素晴らしいです。見る人の想像力を掻き立てる力があり、新しい写真表現のひとつの形なんじゃないかなと思いました。上質な広告写真のようなインパクトを感じる一枚です」(熊切)

受賞のコトバ

自分の写真に自信を失くしている時期に、一つの目標としていた「TopEye賞」受賞の夢が叶い、とても光栄です。この賞を受賞できたのも顧問の先生方、部活のメンバー、家族などの支えがあったからだと思います。今回の作品では、ジッパーの隙間から鋭くのぞく「目」の力強さを表現し、さらに青で囲むことで、静寂やミステリアスな雰囲気 연출しました。見る人の想像力を掻き立てる作品になるよう心がけました。この経験を活かし、これからも部活動を頑張っていきたいです。



金賞

2025
第2回

賞状 CREATORSイージーラッパー
Moleskine Nikon F3デザイン
オリジナルノートブック

「Personality」山中 すみれ

和歌山県立神島高等学校3年

「ネイルと深いしわのある手とのギャップにまず惹きつけられました。手から何かが伝わってくるようで、はっきりとはわからない。そんな不思議な魅力があります。また、手の組み方や指の見せ方にも、構図のデザイン性やおもしろさを感じられます。ただ指を組んでいるだけに見えて、そこに強烈なインパクトが詰め込まれている。そんな思い切りの良さもよかったです」(熊切)

「手やネイルの大胆な捉え方により、撮影者が何に惹かれたのかがしっかりと伝わってきます。レンズの効果がうまく活かされていますし、シャープさが強調されたプリントは被写体の特徴をより引き立てています。細部まで気を抜かずに完成させたいという意志や、どこを活かしたいのか、どう見せたいのかという意図が明確に感じられて魅力的です」(秋山)

受賞のコトバ

単写真部門において金賞に選んでいただきありがとうございます。この写真は、初めて出会った女性の手元を撮影したものです。ヒールを履き、スーツケースを側に置き、日傘を持ちベンチに座っている姿に魅了されました。気づいたら声をかけて撮影していました。



新人賞

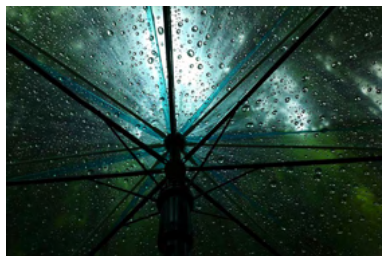
2025
第2回

賞状 Nikonオリジナル
キルティングポーチ

「祭男」岡 凜花

和歌山県立神島高等学校1年

「まず被写体選びが秀逸でした。さらに被写体との距離感も良く、思い切って寄ったことでその人の素の表情が引き出されています。構図に関しては、被写体を画面の中心からもう少し左右どちらかにずらして動きを出し、偶然の出会いのようなドラマ性を演出してみてもおもしろいかもかもしれません」(熊切)



「光に眩む」進司 夏鈴

神奈川県立横浜瀬谷高等学校1年

「雨粒の水滴がキラキラと光り、傘の奥に広がる晴れ間が、雨上がりの予感や物語性を感じさせる素敵一枚でした。単なる美しい風景ではなく、そこにある“これから”を想像させる力があります。背景をもう少し広く取り入れると、晴れ間の広がりや余韻がより伝わるかもしれません」(秋山)



「炎に溶ける影」

松井 理央

同志社女子中学校・高等学校
高校1年(京都府)

「四隅を締める構図によって視線が人物に導かれます。背景の光が巧みに使われていて、人物の目線とリンクするラインが印象的。シルエットの表現が光と影のおもしろさを際立たせ、見る側に“何を見ているのだろう”と想像させる力を持っています。露出の決め方にも思い切りの良さを感じられました」(秋山)



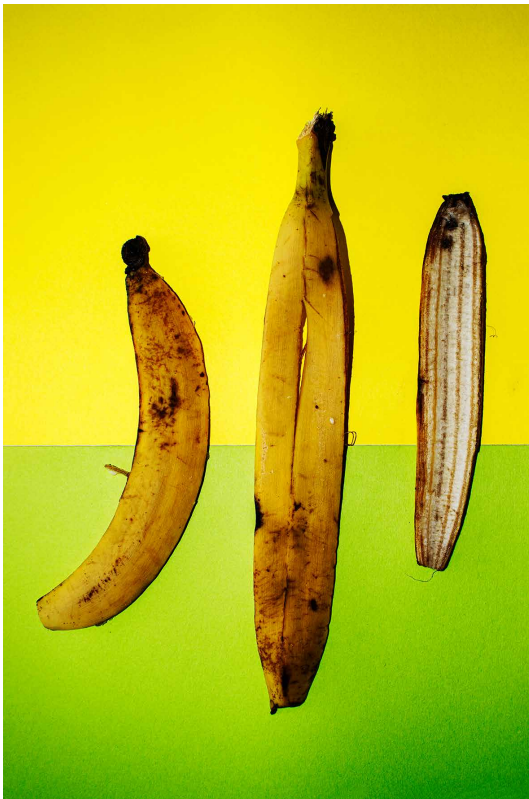


賞状 Moleskine Nikon F3デザイン
オリジナルノートブック

「〈夏色と一瞬〉は、ドラマチックな光や水しぶきなど、一瞬のおもしろさをうまく捉えられています。写っている人物の表情も作り込みすぎでなくて、彼らの素直で自然なやり取りが透けて見えてくるようです。まさに単写真の旨味みたいなものを、最大限に活かしている作品なんじゃないかなと思います」(秋山)
「〈バナナ〉は、バナナの皮に注目した視点のユニークさが光っています。しかも単に皮を撮っているだけではなく、背景の色彩や皮の配置のバランスも秀逸で、インパクトの出し方に写真表現ならではの面白さがよく表れていると感じました。よくこのバナナの皮を撮ろうと思ったのと、率直に感心しています」(熊切)

「バナナ」岡田 将樹

神戸国際大学附属高等学校2年(兵庫県)



「勝利の咆哮」堂前 海輝

福井県立丹生高等学校1年



「夏色と一瞬」前田 琉和
大阪府立工芸高等学校1年



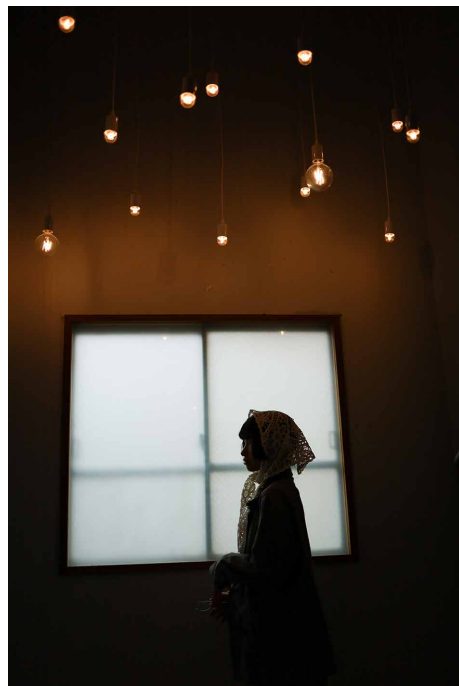
銅賞

2025
第2回

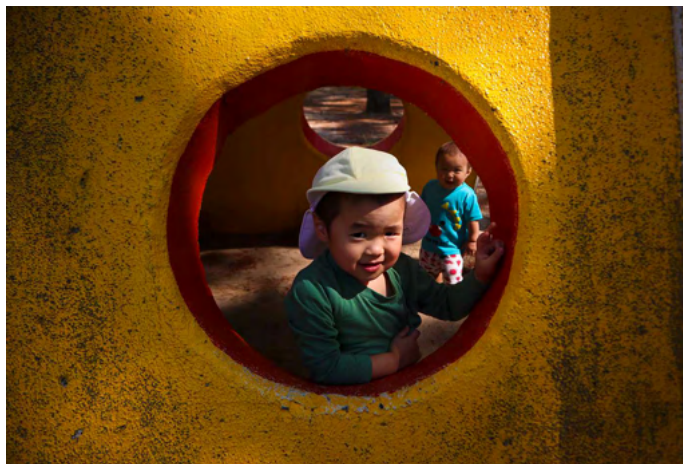
賞状 CREATORSレンズケース

「〈見上げずに見た空〉ですが、こうした見落としがちな場面に気づけるのは、視野を広く持っているからこそ。自分だけが気づいた小さな宇宙”のような世界観が目を引きました。映り込んだ人々の動きにも自然な味わいがありますし、独自の視点でいい被写体を見つけられましたね」（熊切）
「〈ニヤッ〉は、被写体との距離感を保ちながら撮影することで、こちらを少し警戒するような子ども表情をうまく切り取ることができています。穏やかな色味が見る者の懐かしさを誘いますし、丁寧な背景処理によって雑味なくまとまりのある作品に仕上がっていますね」（秋山）

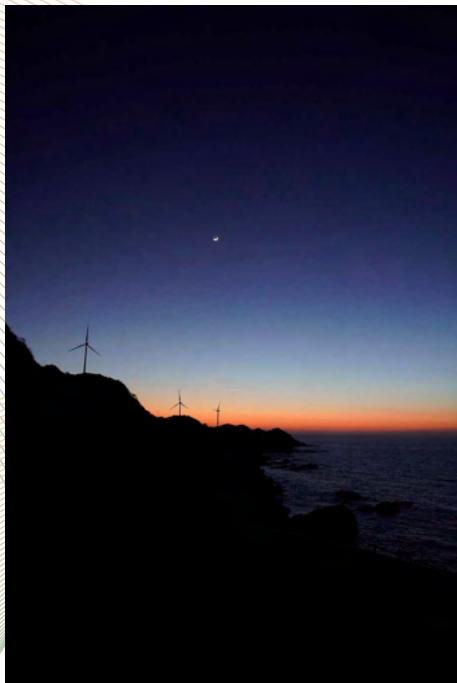
「星の下で」知花結
沖縄県立浦添工業高等学校3年



「ニヤッ」田上 莉子
和歌山県立神島高等学校3年



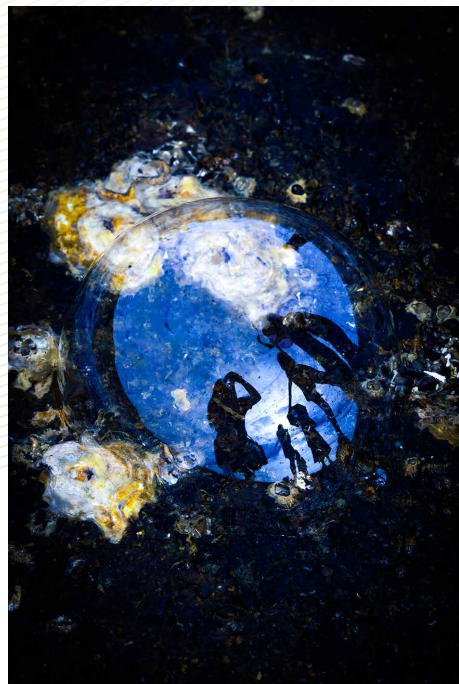
「染まっていく」原 昊夢
出雲北陵高等学校3年(島根県)

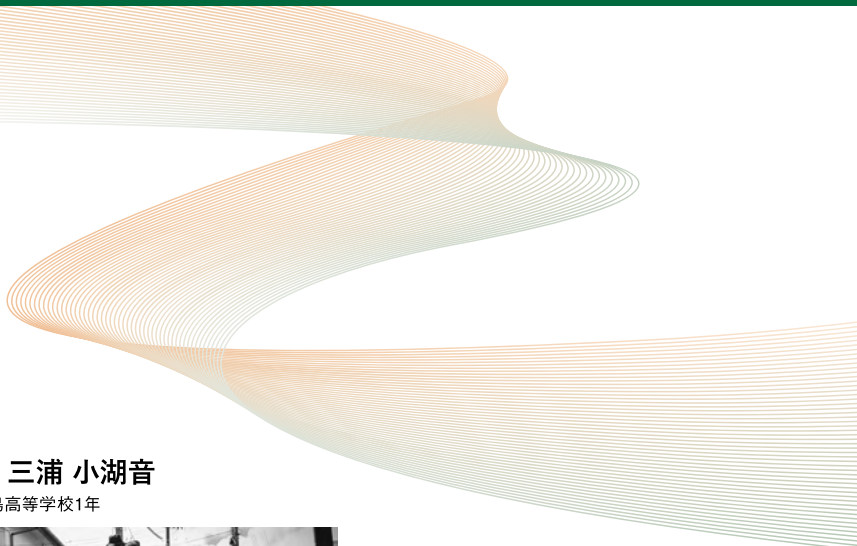


「期待の手」服部 栞奈
沖縄県立浦添工業高等学校2年



「見上げずに見た空」寺田綾乃
神戸国際大学附属高等学校1年(兵庫県)





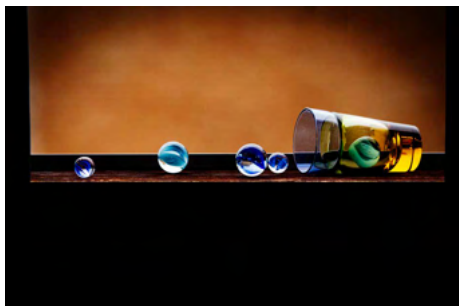
「次は…」 三浦 小湖音

和歌山県立神島高等学校1年



「囚れから一步先へ」 萬谷 愛美

神戸国際大学附属高等学校1年(兵庫県)



「いっせーの!」 佐藤 寿実侘

八代白百合学園高等学校1年(熊本県)



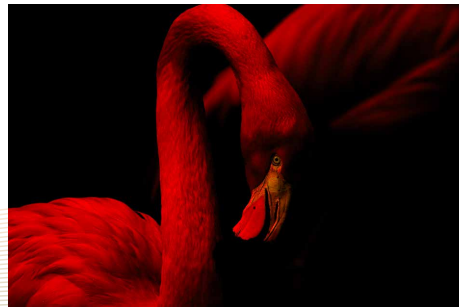
「ときめきのパレット」 戸谷 百菜

福井県立丹生高等学校1年



「紅」 渡邊 哲太

東京都立武蔵村山高等学校2年



「#ズッ友」 大山 葵衣

埼玉県立浦和第一女子高等学校2年



「むし
筆る」 山田 美咲

大阪府立生野高等学校2年



「すれ違い」 西尾 晃大

出雲北陵高等学校3年(島根県)



「進む時の中で」 野尻 琉翔

東京都立武蔵村山高等学校1年



賞状 CREATORSステッカー

「囚れから一步先へ」は、ガラスの透明感や色味を活かしたライティングがとても上手で、ビー玉やグラスを画面中央に配置することで、今にも転がり出しそうなリズム感が生まれています。背景の落ち着いたアンバー系の色に対して、ビー玉の鮮やかさがはっきり際立っており、色彩の組み合わせも美しく計算されていると感じました」(秋山)

「#ズッ友」は、よくあるシルエットの表現手法に色彩のあるおぼろげな光を加えることで、より印象的で魅力的な仕上がりになっています。背景にロッカーが写っていることで、シンプルながらも、友情や物語を感じさせる動きがあり、ドラマ性のある奥行きのある深い作品になっていますね」(熊切)

「Born」 森田 彩乃

豊川高等学校3年(愛知県)



見学参加も大歓迎!

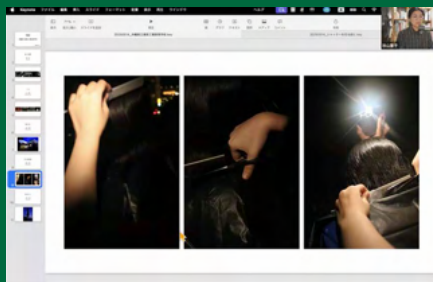
オンライン講評会&セミナー 「部活におじゃまします」

TopEyeフォトコンテストの審査員の先生方による、
オンラインでの作品講評会や写真のいろはを学べるセミナー。
ご好評いただき、今年も開催も残すところあと2回となりました。
まだまだ応募受付中なので、部活動の時間にぜひご参加ください!

好評
開催中!

12月のセミナーのテーマは……

- ☑ 「写真を読む楽しみ」
- ☑ 「スナップ写真の大事なコト」



プロの写真家たちから直接学べるチャンス!
ぜひ、ご参加ください



Web会議ツール「Zoom」を使って、全国どこからでも参加可能。講評会は生徒による作品説明の後、先生が改善点をアドバイスしていきます。セミナーは各回内容が異なるため、初回から参加していなくても問題ありません。もちろん見学参加だけでも大歓迎です!

熊切先生



秋山先生



開催は残り2回!

12/3(水) 12/12(金)
TopEye HPから応募受付中!



**被写体との距離感が
審査のポイントになりました**

熊切: 今回のコンテストは、単写真の力強さがとても印象的でしたね。ここ最近、組写真に比べて単写真がやや押され気味だった印象がありましたが、今回は力作が数多く集まっています、単写真のおもしろさを再認識できました。

秋山: そうですね。1年生の応募作品も多くて、その中でも驚くほど完成度の高いものがありました。

熊切: たまたまかもしれませんが、色彩豊かな作品も多かったですね。色をどう引き出すかという工夫から、作者の発想の自由さや広がり伝わってきて、見応えのある審査になりました。

秋山: 被写体との距離感も今回の大きなテーマだったように感じます。上位の作品

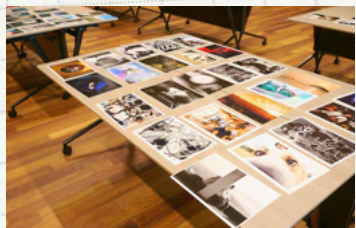


の中には、被写体にしっかり寄っている思い切りのいい作品が多かった。撮りたいという強い気持ちが、他の作品と比べて際立っていたように思います。

熊切: 引きの写真が多い中で、「よくぞここまで寄ったな」と感じる作品にはやはりインパクトがありますよね。

秋山: そうですね。ズームで寄るより、自分の足で一歩前に出て撮ることで、その場の空気感や被写体との関係性がグッと深まります。やはり「あと一歩」が届いていない作品を見ると、もったいないなと思ってしまいます。

熊切: 引きの構図ももちろん意味があれば素晴らしいです。でも、「本当は寄りたいのに寄れていない」という印象の作品は、やはり力強さに欠けてしまいます。今回はその点で、「寄り」の力をうまく使った作品が多かったと感じました。



審査員 **熊切 大輔**

東京工芸大学を卒業後、日刊ゲンダイ写真部を経てフリーランスの写真家として独立。ニコンカレッジ講師。ニッコールクラブ アドバイザー。公益社団法人 日本写真家協会会長。

審査員 **秋山 華子**

大阪芸術大学写真学科卒業後、写真家・織作峰子氏に師事。大阪芸術大学写真学科非常勤講師。ニコンカレッジ講師。ニッコールクラブ アドバイザー。

写真をはじめたのは高校に入学してから。軽い気持ちで写真部の体験入部に参加したのがきっかけでした。先輩たちが優しく教えてくれて、その時間がとても楽しく、「これ好きかも」と感じたのを覚えています。転機は1年生のときの校内コンテスト。虫が飛び立つ瞬間を偶然撮影することができて、「一瞬のとき」を収められる写真の魅力に一気に引き込まれました。

最初は風景や人物などいろいろなジャンルを撮っていましたが、2年生の後半からは自然や動植物に惹かれるようになりました。自然の中で被写体を探していると毎回新しい発見があり、組写真で自分の好きな世界観を作るおもしろさにも夢中になりました。

一方で、コンテストに応募しても結果が出ずに悩んだ時期も。1年生の後半から2年生の中頃にかけて、何を撮りたいのか分からなくなったり、優秀な同級生たちと比べて焦ってしまいました。ですが、とにかく歩いて撮り続けるうちに「撮ること自体が楽しい」と気づいたんです。顧問や先輩からのアドバイスも支えになり、少しずつ成長を実感できました。その頃に撮った作品が「不感世界」です。

部活動で学んだのは、「楽しむこと」が一番大切だということ。楽しむ自然と意欲が湧き、撮る枚数も増えて、上達につながるんですよ。写真が上手な人とは、何より写真が好きで、撮ることを心から楽しめる人だと思います。

写真をはじめたのは高校に入学してから。軽い気持ちで写真部の体験入部に参加したのがきっかけでした。先輩たちが優しく教えてくれて、その時間がとても楽しく、「これ好きかも」と感じたのを覚えています。転機は1年生のときの校内コンテスト。虫が飛び立つ瞬間を偶然撮影することができて、「一瞬のとき」を収められる写真の魅力に一気に引き込まれました。

最初は風景や人物などいろいろなジャンルを撮っていましたが、2年生の後半からは自然や動植物に惹かれるようになりました。自然の中で被写体を探していると毎回新しい発見があり、組写真で自分の好きな世界観を作るおもしろさにも夢中になりました。

一方で、コンテストに応募しても結果が出ずに悩んだ時期も。1年生の後半から2年生の中頃にかけて、何を撮りたいのか分からなくなったり、優秀な同級生たちと比べて焦ってしまいました。ですが、とにかく歩いて撮り続けるうちに「撮ること自体が楽しい」と気づいたんです。顧問や先輩からのアドバイスも支えになり、少しずつ成長を実感できました。その頃に撮った作品が「不感世界」です。

部活動で学んだのは、「楽しむこと」が一番大切だということ。楽しむ自然と意欲が湧き、撮る枚数も増えて、上達につながるんですよ。写真が上手な人とは、何より写真が好きで、撮ることを心から楽しめる人だと思います。



2024年度第3回TopEyeフォトコンテストTopEye賞受賞作品「不感世界」

TopEye's OB&OG interview

今になり先輩を訪ねて。 vol.5

写真も撮るうえで大事なものは、何よりも楽しむこと



石川 修麻さん

宮城県白石工業高等学校卒。2024年度第3回TopEyeフォトコンテストにて「不感世界」でTopEye賞を受賞。第13回高校生デジタルフォトコンテストにて「はめられた男」で入選などの受賞歴を持つ。

愛用カメラ **Nikon Z50**

「入部したばかりの頃、指導していただいた先輩がZシリーズを使っていたのが購入のきっかけ。コンパクトで持ち運びがしやすく、使い勝手がいいところがお気に入りです」



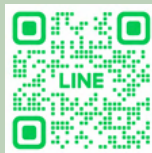
WEB・SNS展開中!

チェック&フォローお願いします

TopEyeの公式Instagramでは、コンテストの入賞作品や取材のひとコマ、写真展案内などは日々更新中。また、ニコンイメージングジャパンの公式LINEではニコンの製品やキャンペーン、ニコンプラザなどの最新情報をお届けします。ぜひフォローしてください!



「TopEye」Instagram



ニコン イメージングジャパンLINE



ニコンイメージングジャパン 「TopEye」WEBサイト